

第 53 回けんこう教室開催レポート

1月20日(土)に第53回けんこう教室を開催いたしました。風が強く、冬らしい冷え込みが続く中、133名の方にご参加いただきました。

インフルエンザが流行していることもあり、入口ではマスクを配布しました。

今回は、副院長で外科統括部長の板野理医師(国際医療福祉大学医学部 消化器外科学主任教授)が講師を務め、「あなたが、がんといわれたとき～外科専門医が話す、医師のホンネ～」と題して講演を行いました。

講演では、がんに関する統計(疫学)データ、がんの進行(ステージ)など基礎的な情報の後に、外科・放射線・抗がん剤の各治療方法の種類とそれらを組み合わせた集学的治療の説明があり、治療後の生存率を比較して「消化器がんでは手術が唯一の根治手段」だというお話がありました。

また、「手術の上手、下手」があるのかや「そのことが成績に関係するのか」といった、日頃聞く機会の少ないお話があり、わが国の医療は医療の質が平均的に高いこと、外科治療は「個」ではなく「チーム力」が大事であるということについて触れました。さらに、先進医療の紹介と注意点、近い将来に実現するであろう「プレジジョン・メディシン」を動画などを用いて説明しました。

引き続き、がんの告知の問題点や医師への上手な説明の受け方のポイント、セカンドオピニオンの依頼方法、さらには、氾濫する健康情報やマスコミ報道について、真贋の見極め方や報道の背景についても説明に時間を割きました。医師の心理を交えた解説には、会場から時折、笑い声や感嘆の声が上がっていました。

講演に熱がこもり、時間がオーバーしましたが多くの方が最後まで熱心に講演に耳を傾け、公演後の質問コーナーでは、何名もの方が質問し、板野主任教授が丁寧に回答しました。



板野理 消化器外科学主任教授



大勢の熱気に包まれた会場

リハビリ体操では、リハビリテーション室の善田主任が、活動性を上げられるように体幹(お腹周り)を中心に鍛える体操をご紹介しました。

○次回のけんこう教室は、2月17日(土)10:30から

「内視鏡でできる検査・治療の最新事情

～病気を早期に発見し、早期治療を～」

(坪井 優 消化器内科副部長、国際医療福祉大学 病院講師)を予定しています。